

## 全国交流ワークショップ実施報告

### ○ タイトル

平成 30 年度「津波防災の日」スペシャルイベント『最新科学×津波×地域防災』関連イベント  
地区防災計画の策定に向けた全国交流ワークショップ

### ○ 開催概要

日時 : 2018年11月6日(火) 10:00~12:00

場所 : 内閣府 中央合同庁舎8号館4階 407-1会議室

### ○ ねらい

今年度の地区防災計画支援対象地区の、策定における悩みや効果的な取組に関するアイデアを  
地区同士で共有し、素案とりまとめや活動の継続・発展に役立てる機会とする。

### ○ プログラム

	内容	担当
1	開会 挨拶	内閣府
2	地区の事例紹介 (1) 岩手県大槌町安渡地区 「東日本大震災後の地域防災計画見直しの背景」 (2) 高知県黒潮町 「黒潮町の地区防災計画」	安渡町内会 佐々木会長 黒潮町情報防災課 徳廣課長
3	ワークショップ (1) いま困っていること (2) 2事例を踏まえて自地区に取り入れたいこと	国土防災技術(株)
4	講演「地区防災計画のとりまとめと活動の継続・発展に向けて」	加藤准教授
5	まとめと講評	加藤准教授
6	閉会 挨拶	内閣府

### ○ ワークショップでの意見交換の内容

	困っていること	取り入れたいこと
A 班	若い世代は人数が多いが、防災に関心が低く、広報等も空ぶってしまっている。	学校と地域の連携を利用する。 メディアを利用する。 子どもを参加させて親もついてくる仕組みをつくる。
	地区によって防災意識が異なる。	住民同士で話しやすい関係を築く。
	行政との温度差を感じる。	役所とコミュニケーションを取り、役割分担をする。

B 班	正常性バイアスのために行動に結びつかないことがある。	避難所立ち上げ訓練を津波ハザード外の地区住民が行う。
	自治会の加入率が低い中、住民が取組みに参加してくれるか不安である。 ・危機感が薄いため逃げない人もいれば、逃げたくても逃げられない要援護者もいた。	目に見える対策を考える。 住民人口より多い観光客への対応も今後考えたい。
C 班	地区によって取組み姿勢に差がある	小中学校にも参加してもらう。
	企業は守秘義務があり、情報共有は困難である。	地域と課題共有できる場をつくる。
	誘導看板や標識は設置してあるが、存在を知らない人もいる。	誘導看板や標識のことを伝える方法を検討する。
D 班	自治会の加入率は低く、地区をどうまとめるのが課題である。	地区のリーダーの育成方法を考え、防災活動を継続していきたい。 (防災士の活用や、学校との連携 等

○当日の様子



山本大臣（防災担当）の挨拶



先進地区による事例紹介



ワークショップの様子



加藤准教授の講演

以上